

三重県立上野高等学校  
同窓会報  
VOL.18

白 HAKUA 亜

事務局：〒518-0873  
三重県伊賀市上野丸之内107  
上野高等学校内  
TEL & FAX：0595-24-2231  
ホームページ：  
http://www.ict.ne.jp/~hakua/  
E-mail：hakua@ict.ne.jp

美術印刷の起業に成功  
新聞社での企画経験から

友人の監督のため  
伊賀で上映会

今年の2月、伊賀市文化会館で「ゆずり葉の頃」の上映会があった。中みね子氏(岡本喜八監督夫人)初監督の作品である。監督は「2000人は入ってほしい」と言っていたが、1200

席の前売り券が札止めになった。この原動力になったのが監督と親交があり映画の企画段階から関わってきた大阪の丹輪アート(株)会長、丹羽ひろさん(高6回)である。文化会館の設備のよさに惚れ込んだ監督の「ここでやりたい」の一言で決定。そこから丹羽さんが親戚・友人・知人のネットワークをフル稼働させてチケット販売を展



丹羽ひろさん(高6回)

若い方々にも魅力を  
感じていただける会に

同窓会会長 左橋佳三

上野高等学校同窓会の皆様方におかれましては、益々ご健勝にてご活躍されておりますこと、誠に喜ばしく存じます。平素は同窓会に對しまして、物心両面に亘りご理解、ご協力賜わっておりますこと、大変有り難く、書面ではございますが厚くお礼申し上げます。

本校も、学校の前身であります三重県第三中学校が明治32年に創立されまして以来、本年度で創立120周年となる節目の年を迎えることが出来ました。この間、本同窓会も物故会員様を含め4万5000名を超える大きな組織となっておりますこと含め、ご同慶の至りと存じます。

費、或いは新卒業生諸君の入会金等によりまして、事業活動費を賄い、各事業とも計画通り遂行できておりますこと、有り難く存じておりますが、残念ながら五十歳代以下の若い方々が、お仕事のご都合が在りだとは存じますが、同窓会に對する関心が一部の方を除き希薄であり、同窓会運営の将来にも支障が生じると懸念するところがございます。まして、こうした若い方々にも魅力を感じていただける同窓会となるように努めていかなければならないと、強く責任を感じているところでございます。

一方、米國と中国の貿易摩擦問題、英國のEU離脱問題等の経済情勢、或いは毎日のように報じられる殺人事件、痛ましい交通事故等の物騒な社会情勢等、不安な状態にある現在、地域的にも、年齢階層的にも大きな拡がりのある同窓会相互の連携を密にすると同時に、情報の交換、或いは親睦を

開。当日の観客も驚いた満席での上映となった。  
丹羽さんは高校を卒業後、「他人の飯を」と言われ、上京して家事手伝いも経験。郷里の旧伊賀町に戻り、23歳の頃、親に黙って大阪に出て就職。やがて住み込みの仕事ではあきたらず、日本経済新聞社の求人に応募。

縁に恵まれ  
道を拓く

その時は心細くて会社の周りをぐるぐる何周も歩いたが試験は作文。書くことは苦にならない上に面接官が奇遇にも上野中学卒業の方だった。配属された事業部は、展覧会の主催やデパートの文化事業を扱う部署。女性が1人でお茶くみもしたが、ポスター・図録などの発注、展覧会などの企画などを勉強した。8年経った頃、お世話になった部長が転勤になったことや、日経に出入りしていた印刷会社の社長から「うちへ来ないか」と声がかかったのを機に転職。

それからは商品の企画と営業の仕事、当時女性の営業者は珍しかった。印刷の事は何も解らなかつたが、大事なことはお客さんがみな教えてくれた。4年目に社長が亡くなり、ますます仕事を背負うことになる。日本経済

足立美術館に  
提案、評価

新聞からも注文をもらったが、ここでも不思議な縁があった。日本庭園のランキングトップで知られる足立美術館の創立に携わった人で柘植中学時代の2年先輩の女性と再会したことから足立美術館の仕事も受けるようになった。やはり「人に恵まれていて、いい出会いがあった」と振り返る。美術館創立10周年の時には横山大観の図録1万冊の注文をもらうほど信頼を得た。



足立美術館創立者の足立全康氏と

profile

昭和11年、名古屋で生まれ、19年、母の故郷・旧伊賀町へ。柘植中学校から上野高校へ。60年、仁輪アート(株)を設立し、現在は会長。

「何でも本気でやったらできるものですね」とおっしゃった言葉が印象に残っている。(取材 安屋宣子 高19回)  
昨今、印刷業界は苦しい状況にあるが、創業してから自分の給料がもらえなかつたという事はまだ1度もない。丹羽さんはこの春、社長から会長になり第一線から一歩退いた。  
「何でも本気でやったらできるものですね」とおっしゃった言葉が印象に残っている。(取材 安屋宣子 高19回)

永遠の上野高校の  
ファンとして

学校長 松井慎治

同窓会会員の皆様には、平素より上野高校へのご支援をいただき大変感謝しております。

創立120年の年を迎え、全国世界各地で上野高校卒業生が、各界でご活躍されておりますことはこの上もない喜びと誇りであり、またその姿は在校生にとっても非常に心強く、今後の自

信につながるものと確信しております。本校は、本年度より5年間、文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクール(SHS)の指定校に採択されることとなりました。全国に高校が約6000校ある中で、約200校、3%の学校しかこのSHS校には選ばれません。国際的な科学技術人材を育成することを目指し、平成14年度から文部科学省が実施している取組です。勉学、部活動等に加え、SHSの取組として生徒が身近なところから課題を見つけ答えがなにも向かっていく「探究活動」を実践していくことで、今後予測がつかない世の中を生き抜いていく力を上野高校の生徒は備えることができると考えています。

上野高校は卒業生をはじめ、地元の方々の「上野高校ファン」に支えられており、学校に向ける熱い思いや期待が大きいことを感じております。その思いに応えられるよう、生徒、保護者、地域の皆様の期待に応え、信頼される、魅力ある進学校を目指して参ります。  
その中で、生徒には色々な機会を通じて次の3つのことをお願いしております。  
①挨拶を大切にしよう  
②気づきを大切にしよう  
③命を大切にしよう  
これらのことは、今後の進路を考える上で進路先の大学、専門学校、就職先企業等、社会からの要請が非常に高いものです。  
今後上野高校は、日々邁進してまいります。  
皆様から母校へのご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。時は変わっていきませんが、今後共「永遠の上野高校のファン」であっていただくことをお願い申し上げます。  
最後になりましたが、皆様の益々のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます。

北村純一さん(高18回)

創立120年を迎えた上野高校の卒業生のなかで、頻りに同窓会を開き、最も元気のいいのが上高第18回だとい... 多彩な人材が集まる団塊の世代だ。伊賀に残った人も、一旦は「越えてあふれて外に」出た人も戻ってきて地域のリ... 回登場いただくのは、日本ペンクラブ会員で小説集『芭蕉と其角』を上梓した北村純一さん。大阪市立大学経済学部からあさひ銀行(現りそな銀行)に進まれた。その間、旧通産省の関係団体に出向されたり、世界各国に出張されたりしたこともある。



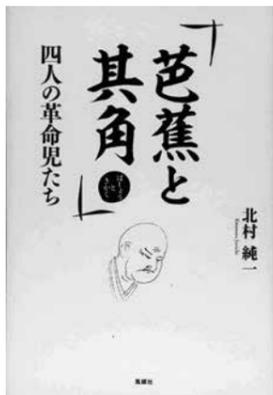
『芭蕉と其角』を捧げる北村純一さん。出版。金子兜太氏より賛辞。この2冊は俳文集。65歳で退職し、小説を中心とした文筆活動に入り、70歳になって3冊目の『芭蕉と其角』を

高校時代、定期考査や実力テストの度に、廊下に順位が張り出されることもあり、「勉強第一だった」と言われる。国語は苦手だったが、就寝前の1時間は文豪と呼ばれる作家の作品を読んでおられたとか。濱川先生の授業はよく覚えておられる。父親が俳句を嗜んでいて、芭蕉関連の本が家にあり、作句を始めた。22歳の時、朝日俳壇に、加藤楸邨選で「添ひ流るる木の葉に誓ふ夫婦かな」が初入選した。45歳から二足の草鞋で文筆活動に従事、各紙にコラムや新聞小説を連載。著書としては、56歳で「団塊世代へのシユプレヒコール」を出版。朝日新聞全国版に大きく取り上げられた。61歳で『侏儒の俳句』芥川龍之介に捧げる箴言集を出版。金子兜太氏より賛辞。この2冊は俳文集。65歳で退職し、小説を中心とした文筆活動に入り、70歳になって3冊目の『芭蕉と其角』を

『芭蕉と其角』で芭蕉の素顔に

風媒社から出版した。現在、朝日新聞(三重版)に「続芭蕉の横顔」を執筆中。地元文化サークルで俳句の指導をしたり、講演を行ったりしている。

作品は芭蕉と其角の師弟関係を縦軸にしながら、当時の俳壇の思潮を2人に語らせている。特に「軽み」に対する2人の見解の相違は、2人の生き方の相違でもある。小説のなかに作家が顔をだすのは、現代小説ではよくある手法だが、貞門、談林、蕉風に対する考察は評論とも読めるのだ。蕉門のなかで、なぜ宝井其角かと尋ねると「芭蕉が行脚の生活を始めると、江戸俳壇の中心は其角に移り、芭蕉より人気があった。芭蕉が神格化されたのは、高い芸術性は言うまでもないが、真面目な求道者で、従順な人柄だったから」とおっしゃる。北村さん自身は、同じ銀行員で俳人だった金子兜太氏に師事し、社会性を重



風媒社刊 本体1,700円

視した俳句を作っている。北村さんの根底にあるのは、旧態依然とした俳句を革新しようとした芭蕉と其角への讃歌である。それは取りも直さず、1970年前後に青春を過ごした者特有の共感と追憶かもしれない。人間に、少年期や青年期、壮年期があるように、時代にも青年期がある。団塊の世代を中心に、学生運動が盛んだった時代は、日本の青春だったと思う。赤面するほど青く幼稚な一面があったが、エゴイズムを嫌悪し社会のあるべき姿を問う純粋なひたむきさは今も色あせていない。そんなことを考えさせてくれる一冊である。(取材 番條克治 高21回)

出版2題



中相作さん(高22回)

プロの作家や評論家が投票によって前年のベスト作品を選出する本格ミステリ大賞(本格ミステリ作家クラブ主催)を評論・研究部門で受賞した。作品は昨年3月刊行の『乱歩謎解きクロニクル』(言視舎)。2009年の講演を書き起こした「涙香」「新青年」、乱歩」を中心に、江戸川乱歩や横溝正史

らの著書に寄せた解説など8編をまとめた。日本探偵小説の祖とされ、語り尽くされた観がある乱歩の作品と自伝を手がかりに、丹念な分析で新しい乱歩像を提示した点が評価された。同賞は小説と評論・研究の2部門。会員による予選会で候補作が選ばれ、その全作品を読んだ会員だけが部門単位で投票。選評はすべて公開されるといふ厳正な審査が特徴だ。上野高校の卒業生からは過去、小説部門で麻耶雄嵩さん(高39回)、評論・研究部門で巽昌章さん(高27回)が大賞を手に入れている。

19回目を迎えた今年、小説部門は伊吹亜門さんの『刀と傘』(東京創元社)が受賞。6月に東京で賞の贈呈式があり、中さんも出席した。乱歩生誕地の名張市で1995年から2008年まで市立図書館の乱歩資料担当嘱託を務め、同館が収集した資料をもとに『江戸川乱歩著書目録』など目録3冊を刊行した。「乱歩はいまも人気作家で、作品が新しい版で次々

乱歩の謎に挑みミステリ大賞

に出版されています。乱歩の関連資料を集めている図書館にはやるべきことがたくさんありますが、名張市あたりのお役人にはとても無理。目録作成も本来なら図書館職員が手がけるべき作業ですが、妙ななりゆきで私にお鉢が回ってきました。それがきっかけで大賞が受賞できたのですから、名張市という自治体の無能と怠慢には心から感謝しています。5月には名張ユネスコ協会から「なばりのたからもの功労者」に認定された。文化振興や自然保護などに携わる市民が毎年2人選ばれるが、今年のもう1人の功労者、万葉集研究の山田得治さんは上野高校で古典の教を受けた恩師。3年時の学級担任だったことが、「授業に出ず、先生のいうことを聞かない困った生徒でしたから、山田先生にはよく叱られました。喜びを分かち合えて、嬉しさと恥づかしさが半々です」



言視舎刊 本体2,200円

乱歩生誕120年の2014年、個人雑誌「伊賀一筆」を発売。書店には置かず、インターネット通販だけで販売したが、今年10月発行予定の第2号は伊賀地域の書店でも扱ってもらおうという。乱歩が伊賀を題材に執筆した随筆15編を収め、乱歩と伊賀の意外なゆかりを説き、「江戸川乱歩著書目録」の増補もあれば漫才もあるという内容。「考えてみれば高校生当時からまったく進歩も成長もしておらず、本当は名張の困り者。こんなことでもいいかとも思いますが、ともあれ『伊賀一筆』第2号は上野高校創立120周年も記念して発行することにします」(取材 福田和幸 高18回)

懐かしの先生を訪ねて 18

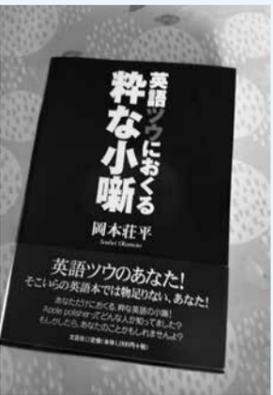
岡本壮平先生

ほんの少し煙草を燻らせ、背が高く長い髪は今もお変わりなく、掲載用の写真撮影をお願いするとサンングラスが必須とお言葉。先生が執筆された本を拝見しながら34歳から在任された上野高校での15年間の思い出を伺いました。

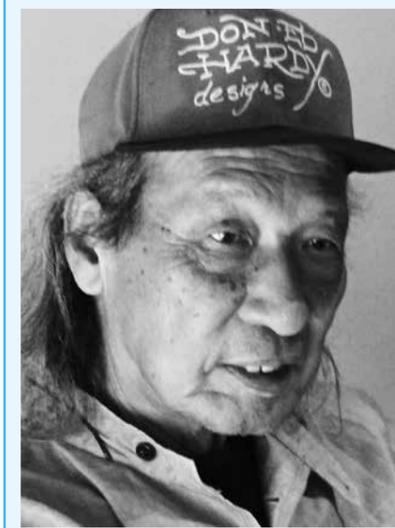
■上野高校での思い出や生徒の印象はいかがですか。  
とにかく、生徒に英語を教えるのが楽しかったね。冗談が通じたし、ある意味生徒が大人だったように思う。先生も生徒も上野高校生としての自覚もあつたし誇りもあつたね。

今でも感動して覚えているのは、体育館での全校集会の様子。全校生徒の後姿を見ると、並んでいる生徒のセーラーの襟の角が一直線に揃っていて素晴らしい美しかった。その光景を捉えた写真が当時は図書室に飾られていたけど、今もあるのかな。あの時の美しさは今も忘れられないね。

■15年間担任をされていた中で、特に記憶に残るクラスはありますか。  
恒例の合唱コンクールで、担任していた1年生のクラスが優勝してしまつたことかな。本来なら3年生が優勝すべきところを1年生が優勝をさらってしまった。予選の時から随分よくて、音楽の岡村先生に褒められたくらいだった。団結したクラスだったと思う。担任をした中には歌手の平井堅君もいたね。吉永先生から聞いた話だけど、彼のお母さんが彼から頼まれていた大学の願書を出し忘れたんだと言っていた。彼がギターを弾きながら来ていたのをよく見かけたけど、当時は今の彼を想像できなかったね。



■ところで、『英語ツウにおくる 粋な小断』を執筆されたきっかけは。Idiomの中に、「面白いものが多い」ことに気付いて集め始めたことかな。例えば、「five o'clock shadow」。これは「青髭」のこと。夕方5時になると男性の髭が濃くなってくることから来ている表現。「make a long face」は、「浮かぬ顔をする」のこと。浮かぬ顔をすると口が垂れ下がって目の力も抜けて、ほらほんの少し顔が長く伸びているでしょう。こんな感じでも面白い。これなら英語を楽しめるんじゃないかな。



\*先生が決して掲載しないようにとおっしゃった先生の有名な『あだ名』。約束通り断念しておこう...。ところで、先生のお父様は私が小学校の時の校長先生で、やっぱり大柄でとても大胆な先生でした。先生から頂いた英語の『ツウ』の本は、とても面白い本でおすすめてます。  
\*先生からメッセージ「書籍『英語ツウにおくる 粋な小断』についての問合せを待っています」(取材 峠美晴 高32回)

### 酒と菓子で「伊賀」を発信 三重テラスで東京支部の有志



「発句也 松尾桃青 宿の春」  
芭蕉翁が伊賀を出て初めて江戸に居を構えたという小田原町、今の日本橋室町に句碑が残る。

そこから一つ筋を違えたばかりの三重テラスで、伊賀をPRするイベントを立ち上げた。高32回卒の首都圏在住者が中心となり、同窓会東京支部の協力も得て5月と7月と早くも2回開催できた。

第1回は5月11日。講師は、伊賀市の森喜酒造場専務で蔵元杜氏の森喜るみ



児島 永作さん (高46回)

あの時、自分に何が出来るかを考えた。スコップ一本担いで被災地へ向かい、ボランティアに参加したのだ。見渡す限りの瓦礫の山。そこに立ち、その光景に呆然としながらも、はつきり見えるものがあった。「これから地方が面白くなる」。直感だった。

地方が抱える問題が震災を機に早回しになり、都会からITターン、Uターンで若い人材がこれまでは違う価値観を持って東北に向かおうとするのではないかと。都会には「ない」と「できない」ことが強みになっていくのではないかと。

東北のものづくりを応援するため、すぐさまプロジェクトが立ち上がり、その担当者に立候補した。伝統工芸品や地場産業、東北のクリエイターとのコラボを企画。それらをカタログ「とうほく帖」に載せて販売し、4年間で実に9億円を売り上げた。

ただ、これからの東北や地方の未来

子さん(高29回)にお越しいただいた。日本酒の歴史や魅力に関する深いお話を伺った後、「(利き酒)賀談義に酔いしれた。」

第2回目は7月15日に開催した「和菓子と日本酒のマリアージュ」。講師は森喜さんと同級生ながら辛党から甘党に交代して伊賀上野の和菓子の老舗、桔梗屋織居18代当主中村伊英さん(高29回)。トーク「和菓子と伊賀のものがたり」と伊賀の3歳の地酒を使った純米吟醸だいふく3種と地酒の飲み比べ・食べ比べ。

参加者のほとんどは一般の方々。上高、伊賀に所縁のある方々の新たな交流の場になればと立ち上げたイベントだが、やはり新たな伊賀ファンを呼び込むことができれば本望だと思ふ。これも芭蕉翁のお導きかも知れない。(宮田隆 高32回)

考えた時、「商品企画」という売り上げを作るための大切なプロセスを自分たちがやっている限り永続的な取り組みにはならないと考え、そのノウハウを教え、事業者を「サポート」する活動に切り替えた。それが新事業「Starline(スタートライン)」だ。2016年から、仙台商工会議所、青森県庁、復興庁等と連携し、東北各地で商品企画セミナーを開催し続けた。これまでに150社以上の新商品開発を「サポート」している。

そして今年、そのノウハウを動画配信で学べるオンラインスクールを開校、日本全国で受講出来るサービスが完成した。先日、東北以外で初となるワンポイントセミナーが、ふるさと伊賀で開催されたのだ。伊賀愛溢れるSNSでのつぶやきを、ま

### 震災を機に東北のものづくりをサポート

こじま・えいさく 1999年、大手カタログ通販フェリシモ入社。東北事務所所長・宮城大学非常勤講師。

### 伊賀鉄道上野市駅 愛称は「忍者市駅」に

伊賀市が忍者市宣言をして2年になるのを記念し、2019年2月22日、「忍者市駅」が誕生しました。これは忍者をキーワードにさらなる誘客につながるよう、伊賀鉄道の上野市駅の愛称として付けられたものです。



愛称が掲げられた駅舎

伊賀鉄道は2017年4月より公有民営方式に移行し、2018年3月には四十九駅が開業しています。今後、

伊賀市への国内外からの観光客誘致や、伊賀鉄道利用増加に向けて「忍者市」駅の効果が期待されています。高虎サミット

### 天守閣に首長が集合

上野城を改修した藤堂藩の祖、藤堂高虎公ゆかりの地の市長、町長が集い、交流を深めながら個性を生かしたまちづくりを寄与する目的で開かれる「高虎サミット」。その第11回が今年10月5日に伊賀上野で開催されます。伊賀市での開催は伊賀上野城築城400年祭が開かれた2011年以来です。

当日は、伊賀上野城天守閣でサミット(首長会議)が開かれ、本丸広場でオープニングセレモニー、崇徳堂で基調講演とパネルディスカッションが開かれます。この日は18時30分から恒例の第36回「上野城 薪能」が本丸広場特設舞台で開催され、サミットに参加の各地の関係者にも楽しんでもらう予定。

### 伊賀文学振興会 作家や作品の顕彰を

6月1日、「伊賀文学振興会」設立総会がハイトピア伊賀で開催された。伊賀ゆかりの作家や作品を顕彰することを中心にし、作家の故・岸宏子さん(阿28回)が伊賀市に寄贈した基金を充てて活動していく。

伊賀は盆地の小さな町であるが書店の棚にはゆかりの文学作品がずらりと並び、横光利一(中13回)、岸宏子、芥川賞作家・伊藤たかみ(高41回)、ミステリー作家の麻耶雄嵩(高39回)や倉阪鬼一郎(高29回)等々。江戸川乱歩もそうなりますか。伊賀市在住の北泉優子さん(高8回)は、今も意欲的に長編を執筆中だ。

会長には福田和幸さん(高18回)を選出。会員には伊藤たかみ氏の名前も挙がる。「自分がやらずして誰かやるんではないか!!」。相変わらずのたかみ節は、大変心強い。伊賀市は「文化振興ビジョン」を策定し今夏公表の予定です。文学の分野でもこのビジョンに沿って振興策が具



ビブリオバトルに出場した高校生たち

### 高校生が横光を紹介

横光利一の人と文学を偲ぶ第21回「雪解」のついでに3月21日にハイトピア伊賀で開かれた。

体化することが期待されます。伊賀近代文学館の構想も、今後拡がりを見せていくかも知れませんね。(岡森史枝 高41回)

◆講演は、「新世紀の横光利一」その魅力と可能性」の演題で掛野剛史さん(埼玉学園大学准教授。「時間」「純粋小説論」などの直筆原稿をスクリーンに映しながら推敲の跡を分析した研究成果を披露した。(福田和幸 高18回)伊賀上野NINJAフェスタ

城下町が忍者であふれる伊賀上野NINJAフェスタは例年、4月から連休までの1か月間にわたって開かれて

## ふるさと伊賀なう

### 上野城からスタート

2020東京五輪の聖火リレーの三重県内コースが6月1日に発表されました。4月8、9日の2日間、9日は伊賀上野城をスタートして名張の赤目四十八滝を経由して熊野に向かい、1964年の東京五輪では伊賀地域



10月に高虎サミットが開かれ、東京五輪では聖火リレーのスタート地点となる上野城

### 白亜ホールで絵画展

創造美術会やイーゼル会で活動する卒業生8人の絵画展が9月17日(月)9月29日(日)に、上野高校明治校舎内の白亜ホールで開催されます。第72回創造展で文部科学大臣賞を受賞した森岡達生さん(高10回)の「寂しい駅舎」や準会員賞の今高光芳さん(高19回)の「黄金色の故郷」なども出展されます。平日でも9時から15時まで見られます。見学の際には事務室に声をかけてください。



岡本栄伊賀市長から茶道部に感謝状が

いきましたが、今年は改元などの事情により大型連休の10日間のみ開催となりました。忍者博物館など盛りだくさんのイベントがくりひろげられ、地元企業や自治会、大学生や一般のボランティアなどがたくさん参加して、大いに盛り上がりました。わが上野高校の生徒も活躍しましたが、中でも茶道部は31人の部員が10日間、シフトを組んで観光客をおもてなし。総括懇談会では茶道部の功績に対し、岡本栄伊賀市長から感謝状を頂戴しました。(池澤素直 高19回)

母 校 の 現 況

文科省のスーパーサイエンスハイスクールに指定

より深化した探求活動を

同窓会東京支部とも連携

設置から10年を迎える理数科では、これまで生徒みずからがテーマを設定して探究を進める「課題研究」を、普通科では地域の課題について探究活動を行う「上高みらい学」を実施してきました。その活動をベースに探究活動をより深化させることを目標に、今年度から文部科学省より「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」の指定を受け、探究活動を中心としたカリキュラムの、一層の充実を目指して活動を始めます。

理数科「みらい探求R」

企業訪問や実験実習

理数科が行う「みらい探求R」では、1年生が6月、伊賀市ゆめが丘にあるミルボンゆめが丘工場を訪問し、工場見学と実習を行う「企業訪問」や、11月に同窓会東京支部の方々が勤める職場を訪問する「東京キャリアアップツアー」を通して、みずからのキャリアについて考えます。また、夏休みに三重大学伊賀研究



東京支部で今年も新卒業生歓迎懇親会

70期生が卒業式を迎えた3月1日から、気がつけば3か月あまりが経ちました。高校では新1年生が希望を胸に高校生としての第一歩を踏み出しましたが、広く全国に巣立っていった卒業生も1人ひとりがスタートを切り、自分の道をしつかり歩んでくれていることと思います。そのような中、今年度も東京支部の新卒業生歓迎懇親会が6月9日に開催され、新卒生3名、既卒生12名の学生諸君が出席してくれました。多くの諸先輩方からいただいたさまざまな言葉は、伊賀の地から遠く離れて日々励んでいる彼らにとって、今後の人生を歩む上で何よりのアドバイスとなったことと思います。伊賀から離れた東京で、卒業生同士



理数科の「みらい探求R」

普通科「みらい探求F」

世界の課題を視野に

普通科が行う「みらい探求F」では、1年生が「ブックレビューアーになる」(本の紹介)や教育実習生へのインタビューを通して情報を収集し、その内容をもとにプレゼンテーションを行い、他者に伝える方法やポイントを学びました。今後は、伊賀地域を中心に据えなが



普通科の「みらい探求F」

らも、世界で生じている課題についてSDGs(Sustainable Development Goals「持続可能な開発目標」)の観点を取り入れ、各自の課題を考えてそれを解決する方法を探究し、校内外に向けてポスターセッションや口頭で発表をしていく予定です。本校では、生徒みずからが課題を見つけ、その課題解決のために考え行動するのに必要な力を、このSSHの取

スーパーサイエンスハイスクール(SSH)とは?

文部科学省では、将来の国際的な科学技術関係人材を育成するため、先進的な理数教育を実施する高等学校等を「スーパーサイエンスハイスクール」として指定し、学習指導要領によらないカリキュラムの開発・実践や課題研究の推進、観察・実験等を通じた体験的・問題解決的な学習等を平成14年度より支援しています。

(文部科学省公式サイトから引用)

が近況を語り合い、次に会う予定を相談している様子を見ながら、同窓生のつながりの大切さを改めて感じました。このような機会を用意していただいている、同窓会東京支部の皆様方に感謝を申し上げます。また、上野高校が今年度から5年間、文部科学省の「スーパーサイエンスハイスクール」の指定を受けたことを報告させていただき、諸先輩方からのサポートについてのお願いをさせていただきました。上野高校がこれからはますます発展いたしますように、ご協力をよろしくお願いたします。(事務局 理数科主任・SSH部部长 福田武司 高48回)

三重県立上野高等学校120年の歩み

- 1899年 三重県第三中学校として開校。
- 1919年 三重県立上野中学校に改称。
- 1948年 学制改革により県立阿山高等女学校と統合、三重県上野北高等学校となる。
- 1949年 学区制実施により三重県上野南高等学校(旧上野市立高等女学校、旧上野市立農学校、旧三重県上野工業学校)と統合、三重県上野高等学校となる。北高校は北校舎、南高校は南校舎に。
- 1951年 南校舎が三重県上野商工高等学校(のちの上野工業高校と上野商業高校)として分離独立。
- 1955年 三重県立上野高等学校に改称。
- 1956年 花之木分校が募集停止。
- 1959年 創立60周年記念事業。
- 1964年 家庭科が募集停止、上野商業高校に統合。
- 1967年 大山田分校が募集停止。
- 1968年 春日分校が伊賀高校として分離独立。
- 1972年 河合分校が募集停止。
- 1973年 農業学科が上野農業高校として分離独立。
- 1979年 創立80周年記念事業
- 1999年 創立100周年記念事業。
- 2009年 理数科を設置。

今年創立120周年

富田、上野、宇治山田

ナンバーズクール

3校が同時に開校

120年前の1899年(明治32)4月、三重県で中学校が3校同時に開校した。前年の県会で富田と上野と宇治山田にそれぞれ第二、第三、第四尋常中学校の設置案が可決された。が、開校前の2月に「改正中学校令」が発布され、「尋常中学校」は「中学校」と改称された。それぞれ現在の四日市、上野、宇治山田の3高等学校の前身である。

3校とも間借りの校舎でスタートを切ったが、翌年、新しい校舎が同じデザインで建てられた。他の2校の校舎は火災と戦災で焼失し、上野だけが残って文化財に指定された。三重県の営繕のトップにいた清水義八氏の設計によるもので、彼は県庁や警察、師範学校など県内の主な公共の建物をほとんど手がけた。

津の中学校を第一としたナンバーズクールは、大正中期に中学校がさらに新設されるに至ってそれぞれの地名を冠した校名になり、「第三中学校」は「上野中学校」に改称された。

戦後の学制改革で、男子校の県立上野中学校は、女子校で現在の崇広中学校の場所にあった県立阿山高等女学校

3高校で講演会など120周年記念事業

上野高等学校

【学校】記念講演会、講師は科学者を予定10月中旬、上野高校体育館

四日市高等学校

【同窓会】母校創立120周年記念総会・講演会及び祝賀会、講師は小説家の伊吹有喜氏(四高OB)11月6日、四日市総合会館

宇治山田高等学校

【学校】記念講演会、講師は京大文学教授・若宮淳志氏(山高OB)、演題「エネルギー問題に挑む」途つて作れる高性能薄膜太陽電池の開発」11月22日、宇治山田高等学校体育館

【同窓会】創立120周年記念オリジナルポロシャツ販売「収益の一部は同窓会へ寄付

と統合、1948年(昭和23)に上野北高等学校になり、現在の上野高等学校に続いている。新制高校になってからは60周年、80周年、100周年とそれぞれ記念事業が行われた。

1999年(平成11)の創立100周年では、四日市、宇治山田、上野の3校が合同で「3校生徒会サミット」などの記念行事を催した。 ※詳細は創立百周年記念に刊行された「自強 百年のあゆみ」をご参照下さい。

# 支部だより

## 東京支部

支部の課題は現役世代会員の減少と活動予算の低減傾向(図参照)です。このため、現役世代で多用されるEメール連絡、ホームページやブログ、フェイスブックで、スマホ・パソコンでの広報と会員間交流を進めています。即座に伝えられ、費用と手間がかからず、記録を残せていつでも見られ、さらに地域を限定しません。東京支部会員に限らず、ぜひスマホ・パソコンをご覧ください。

支部活動は、定例の支部報「伊賀の友垣」発行・新卒業生歓迎会・支部総会懇親会・役員幹事会(春と秋)、

ホームページ <https://iganotomogaki.jimdofree.com/>  
 ブログ <https://iganotomogaki.blogspot.com/>  
 フェイスブック <https://www.facebook.com/groups/223731237740535/>



## 名古屋支部

上高名古屋支部総会は隔年開催で行われており、昨年(2018年6月)開催されました。昨年4月に前支部長松村直人様(高20回)が急逝された後の事であるため、往年の先輩を偲びつつの開催となりました。同窓会本部より会長佐橋様や上野高校校長松井様や同窓会事務局岡井様のご列席を含め名古屋地区の同窓20名の合計23名の出席にて、名古屋プリンセスガーデンホテルで開催されました。

ご出席の中では西川四郎様(中43回)が最高齢でお元気なお姿を拝見でき、還暦を過ぎたといえままだまだ人生の道半ばと我が身が引き締まり、日々精進と感じた次第です。また名古屋市議会で活躍の田山宏之議員(高28回)も参加されました。

前半、総会は新任支部長の改選や会計報告等も滞りなく承認いただきました。講演は、色彩コンサルタントの松本千早様(高32回)が「似合う色で、

## 京阪神支部

人生を豊かに「あなたのパーソナルカラー」を見つけてみませんか!と題し、実演も兼ねて行われ、女性も男性も自分色を見つけられたのではないかと感じました。中部日本放送にご勤務の梅澤信彦様(高32回)のご紹介で実現しました。

懇親会は、比澤和隆様(高27回)の司会で行われ、間に豪華(?)商品の当たるビンゴゲームや伊賀クイズなども入り、楽しいひと時は、あつという間に終わりました。

伊賀クイズは、ネクスコ中日本で東京勤務の森島様(高34回)により進行。本年6月に名古屋本社へ転勤となりましたので、再び名古屋支部活動にも参加されご助言をいただけることと心強く感じているところです。

次回(2020年6月予定)も「元気に再会しましょう」と散会となりました。(支部長 川本隆信)

## 高26回

「雀百まで踊りを忘れず」、声を合わせて歌は歌えた。今回はフォークダンスを踊るように、それぞれが体力維持に努力したい。(番條克治)

平成31年1月5日、三田清で第26回卒業生同窓会を開催しました。

以前は5年に1回の開催でしたが、前回の同窓会で、「これから自分たちも年をとって、くると早くもつと早くして開いてほしい」という声を多くいただいたことや、還暦を機に新たな生活に入った方もみえることから、平成最後のお正月に、3年ぶりに開催したものです。

当日は、親の介護や孫の世話などが離せず、残念ながら参加できなかった方もみえましたが、50名の同級生が集まりました。また、恩師として、其道先生、松田先生、杉本先生、村井先生、西口先生の5人の先生方に参加していただくことができ、昔話に花を咲かせながら、楽しいひと時を過ごすことができました。

最後は、ギターの伴奏に合わせて、みんなで校歌を歌いました。来年秋には旅行に行こうという話もまとまりました。詳細は、今後第26期同窓会ホームページで案内する予定です。

また、これまでの同窓会の残金の一部を母校に寄付することにし、寄付金は、2月13日に上野高校校長室で、松井校長先生にお渡ししました。

## 各回のついでにから

### 高3回

10月24日、第3回卒業生の集いを上野「三田清」で開催した。年齢も85歳となり、記念となる集いであった。生存者も半数を切り今年も物故者の冥福を祈り黙祷を捧げ、皆で生ある今日に感謝した。

今回は遠方は東京、四日市の初参加もあり、思い出話がつぎず

昭和28年3月の卒業以来17年後の昭和45年1月、上野観光ホテルで第1回仁和会総会・懇親会を開催し、平成25年6月、サンピア伊賀での第16回を最後に、全国規模を縮小し伊賀を会場にして引き続き継ぐことになり、今年も5月28日、料亭三田清で第22回集いを、東京2、名古屋2、滋賀2、兵庫5、大阪2、

### 高4回

終始歓談が続いた。目標は米寿、次は卒寿まで元気で会う事を誓って、解散した。

京都1、奈良1、伊賀地区外3、伊賀地区23、合計42人が参加できました。毎年開催していますが、会員が逝去されたり老人施設に入所されたり在宅看護を受けられている方が増えているのに、集いに参加される人数は増え続けています。集いでは60余年前の懐かしい上高時代の思い出や85年の人生経験を語り合い、北出至様の「伊賀かるた」の発表とNHK大河ドラマに「藤堂高虎」放映実現への発言から始まり、吉村靖子様から詩吟、頼山陽「頭を回らす」とカラオケ「鈴鹿峠」に続き、藤澤立子様の美声や中市嘉一様の熱唱へと深まり、10余人により途切れなく続きました。4時間近くの集いは、来年も5月28日の再会を願って終わりました。(西田晃)

## 高20回 にれの会

令和元年6月8日に開きました。3年に1回開催しています。今回は78名の参加を得、再会を喜び合いました。大半の人が数えて「古稀」を迎えま

たが、まだ現役で仕事をしている人、地域のいろいろな役についている人、家族の介護、趣味の会など、皆さん結構忙しいようで、元気いっぱい理由での欠席も多くありました。これはうれしい欠席の便りでしたが、天寿を全うしたとの家族の方からの悲しい、そして寂しい便りも何通もあり、黙祷で故人(現認32名)の冥福を祈りました。

さて、会は、いっぱいの語らいにカラオケやビンゴゲームなどあつという間に時間が過ぎ、予定を30分以上オーバーする程の盛会でした。

あじさいの如し  
 今和に 古稀集う  
 あじさいは1つ1つの小さな花が集まって1つの大きな花になっていきます。この同窓会も1つ1つの小さな花のように、1人ひとりそれぞれ違う人生を歩んでいることを認め合いながら、上野高校の校歌を歌うときにはあじさいの大きな花のように同じ学校で過ごした仲間としてうれし一体感、帰属感に浸ることができました。

次回、3年後の再会を楽しみに会を

閉じました。

平成30年11月4日、サンピア伊賀で5年ぶりの同窓会を開催した。参加者は73名。サンピアの料理をいただく一方、同級生が釣ってきたアマゴや自家栽培した野菜やきのこ類を料理自慢の仲間が天ぷらにして頬張った。また、今回はプラプラナーナという男女2人組のデュオを招いて、若いころに流行った歌を楽しんだ。60も半ばを過ぎた昔の少年、少女が肩を組んで20曲近くも歌ったのである。「あの素晴らしい愛をもう一度」高フォークやグループサウンズ、ビートルズなど、歌詞を見ずに茶色い声で合唱で

きたのは驚きでもあった。その流れで、5月26日、令和最初の集まりとして滋賀県栗東市の「光の穂」で、再びプラプラナーナにお願いしてコンサートを開いた。津村先生は「君といつまでも」を替え歌で歌ってくれた。

「雀百まで踊りを忘れず」、声を合わせて歌は歌えた。今回はフォークダンスを踊るように、それぞれが体力維持に努力したい。(番條克治)



令和元年度(2019年) 総会のご案内

とき 10月27日(日)

14:00~記念講演 15:00~総会
16:00~懇親会(会費3,000円)

ところ ヒルホテルサンピア伊賀

伊賀市西明寺 2756-104 ☎ 0595-24-7000
(本年度から会場が変更です)

記念講演 (一般公開)



国土交通省中部地方整備局
名四国道事務所副所長
講師 前中 稔章さん (高30回)

演題 「防災とバリアフリー施策の現在」

懇親会アトラクション

チンドン屋文化表現者
藤森 莊剛さん ほか5名 チンドン屋演奏
(高18回)

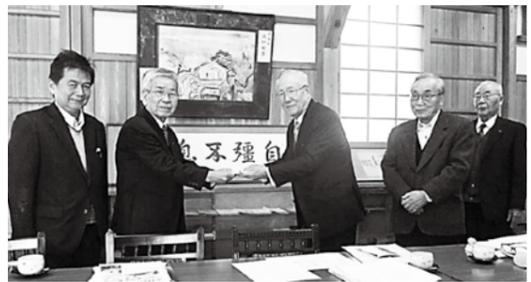
30年度総会報告

平成30年度の総会が昨年10月6日、出席者約70名を迎えて上野フレックスホテルで開催され、前月に行われた役員会・理事会の議案が原案通り承認されました。

総会に先だつ記念講演会では、吉鶴ゆかりさん(高40回)ピアノ奏者が「広がる音の輪、繋がる人の輪」という演題で、自身の音楽人生を通じて得られ

たことや出会った人々とのエピソードなどを、ピアノ演奏や夫でヴィオラ奏者の洋一さんとのアンサンブル演奏を交えながら興味深くお話ししてくださいました。聴衆は皆興味深く聞き入っていました。

総会終了後の懇親会では、吉鶴夫妻のピアノ・ヴィオラアンサンブルの演奏を聴きながら楽しい時間を過ごしました。懇親会の参加者は約50名で、昨年同様盛会でした。



活動を終えた上中会から、同窓会本部へ寄付金50万円が贈られることになり、12月7日、上野高校同窓会館で贈呈式が行われました。同会は120年前の1899年(明治32)、三重県第三中学校として開校され、のちに県立上野中学校と改称、学制改革により1948年(昭和23)に旧制中学の歴史を終えた上野中学の卒業生による組織です。1992年(平成4)に第1回総会を開催して活動を重ねてきましたが、会員が高齢

ホームページをリニューアル

上野高校全日制・定時制のWEBページ(http://www.mie-c.ed.jp/hueno/)が令和元年の冬を目途にリニューアルされます。これに伴い同窓会のWEBページもこのページ内にデザイン変更しておかれます。これまでパソコンでの閲覧用デザインが使われており、スマートフォンなどの携帯端末で見るとは適していませんでした。また、情報の更新も滞りがちで会員の皆様にはご迷惑をおかけしていました。

デザイン変更後は、同窓会WEBページには同窓会事務局からの情報発信だけでなく、会員から同窓生や在校生等に向けた情報発信も掲載したいと思えます。情報掲載を希望される方は全日制教頭または総務部のWEB担当までご連絡・相談ください。WEBページ上に連絡用のメールアドレスを掲載します。また直接お電話(☎0505-21-2551)でお問い合わせください。

(全日制教頭 堀昌弘 高33回)

コンビニからでもスマホでも会費納入が便利になりました

昨年度より会費の振込用紙を刷新し、これまでのゆうちょ銀行に加えて全国の主要コンビニエンスストアでの払込みが可能になりました。スマホを利用した払込み方法の説明書も同封しておりますので、なにとぞ同窓会事業へのご理解をいただき、年会費納付にご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

「宛名不明会員解消」にご協力をお願いします

上野高校同窓会は、4万5000名以上の会員により構成されており、会員情報の正確な把握と情報管理は、同窓会活動の根幹と考えています。転居・ご逝去等により、住所等の情報が同窓会事務局で把握できていないケースがございます。

このような会員の方につきましては、ご本人・ご家族・ご友人の方から同窓会事務局まで、次の情報のご連絡をお願いいたします。

氏名、現住所、電話番号、勤務先(学校名)の異動・変更、および物故の連絡、連絡者名

なお、お知らせいただいた情報をご本人(ご家族)の了解なく「同窓会名簿」に掲載することはありません。ご協力をよろしく願います。

平成29年度(平成29年9月1日~平成30年8月31日) 三重県立上野高等学校同窓会一般会計収支決算書

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 対予算比. Includes income and expenditure sections.

平成30年度(平成30年9月1日~令和元年8月31日) 三重県立上野高等学校同窓会一般会計収支予算書

Table with 6 columns: 科目, 本年度予算額A, 前年度予算額B, 前年度決算額C, 対A-B, 対A-C. Includes income and expenditure sections.

受贈図書 (敬称略)
『芭蕉と其角 四人の革命児達』 北村純一(高18回) 風媒社刊、2018
『横光利一と大津』 サンライズ出版
『横光利一と大津』 サンライズ出版
『河瀬文太郎著、2019年2月発行』
『三重県第三中学校第二回入学生名簿(墨書)』 岡森明彦(高10回)